

おお大勝利

令和2年度 山東サッカー部報第3号 (6月30日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

総体代替試合 日程決定！

接触プレーが認められた部活動が始まって、3週間ほど経ちました。前号では、山東サッカー部でもかなり厳しい感染対策を謳いましたが、少しずつ「日常」が戻ってまいりました。もちろん、**スクイーズボトル（水）の共用を禁止して私用の水筒で対応するなど、引き続き感染対策に努める項目はある**ものの、ピッチ内では不足なくサッカーをすることができるようになってきました。大変喜ばしく思っています。対外試合も21日（土）の対アラソール（3種）から始まり、今週末は土曜日東海大山形、日曜日日大山形に胸をお借りしました。

3年生は3つに分かれました。①**体育系進学を考え、選手権まで残る選手（現在2名）、②7月の代替試合まで残る選手（6名）、③6月中に引退を選ぶ選手（8名）**。選手には休校休部期間中、「山東サッカー部では、これまでも、県総体終了後も残り、2回総当たり制の県リーグ戦を1順するまで（6月末～7月頭まで）サッカーをやり切ってきた」、「休校休部期間中、じっくり勉強しておいて、再開後に例年よりも遅くまでサッカーができるように備えておくように」と伝えてきました。全員で7月の総体代替試合に臨めれば良いと考えてきましたが、代替試合は地区単位で行われる「何もかかってない試合」のため、モチベーションが上がらず学業に切り換えたいという選手が一定程度いるとは予想していました。結果は今年の県総体・選手権に出場した選手を含め8名と、学年の半数は予想よりやや多め。ただし、今回「残るか残らないかは本人次第（引退を申し出てもいいよ）」と伝えていましたし、常々「誰かに強制されてやるのは部活動ではない」とのメッセージは発してきた。3年生各人が、部活動への思いや勉強、自分の将来など総合的に考えて出した結論を尊重したい。

ただし、対外試合で引退試合をしてほしいとの思いがあり、6月27日（土）の東海大山形戦には引退した選手を含め全員に参加を呼び掛けた。都合が悪く、引退する選手のうち1名参加できませんでしたが、**7名のプレーを見納めることができました**。もちろん引退者の中には練習不足の選手もいたため、最高のプレーができたわけではないでしょうが、**チームメート、親、スタッフ、後輩に、「感謝のプレー」を観せることができたのではないか**。本人の中でも良い区切りとなったことでしょう。それをとてもうれしく思う。引退は退部とは違うため、夏には山東サッカーフェスティバルに呼ばれますし、12月には後援会主催の納会もある。そして、卒業後は後援会名簿に載る。8名の3年生、**早めに引退したからには勉強頑張って、残る選手に違いを見せつけてくれたまえ**。逆に残る選手は、**残ったことを後程不勉強・不合格の言い訳にしないよう、これまで以上に両立への高い意識が求められる**。

さて、別紙にありますように、代替試合が決定しました。**7月11日（土）、18日（土）は地区高体連サッカー専門部主催の地区大会、25日（土）、26日（日）は県高体連主催の総体代替大会**です。県リーグのカテゴリーを尊重した対戦となります。応援よろしくお願い致します。

新部員15名入部！

6月23日(火)部登録集会がありました。サッカー部は2年生が選手8名、マネージャー1名の9名と少ないため、2年連続10人割れの懸念がありました(選手1名退部により今年の2年生の協会登録は7名となりました)。そうすると、紅白戦できない、けが人が数名出ると11名揃わず公式戦戦いづらい(一応7名いれば試合は成立)、遠征に行った時のバス代が(人数割するため)割高になる、など様々な弊害がある。しかし、今年は入学段階での入部希望者が17名いたため、胸を撫で下ろしていました。

仮入部期間を経て、結局集会に集まったのは、15名。それでも多いのですが、17名という数字が頭にあったものだから、素直には喜べなかった。そして、**今年も入部段階でのマネージャーがゼロ。**3年連続です。3年生のマネージャーは途中入部・途中退部となったし、**2年生マネージャーのミクリ**も途中入部。複数名マネージャーが入る部もある中、人気がないんですね。一応声掛けして、練習に体験参加した者もいましたが、結局「逃げられた」。その中には、本人はやりたい希望があったが、親から止められた、という者もありました。マネージャーがいないと、スコアを書いて後でまとめる人がいなかったり、合宿で選手が練習している間おにぎりを握る人がいなかったり、サッカー部の活動に多大な支障をきたす。**何事も、活動には裏方が必要なんです！** プロチームだって選手ばかりで成り立っているのではない！

部員諸君、引き続き勧誘に努めなさい。ミクリを孤立させないように！！

一年生諸君、挨拶遅れましたが、入部を歓迎します。入部したからには、勉強とサッカーに高い意識を持ち、全国大会出場めざし精進しなさい。

保護者会長の小屋さんが会場側と緻密な交渉を重ね、新型コロナウイルス感染対策を丁寧に行いながらの「**保護者総会・新入部員歓迎会・代替試合激励会**」を**7月4日(土)16時より山形グランドホテルにて開催することとなりました。**一年生の出し物など、恒例の企画は残念ながら今年はありませんが、部員及び保護者の皆様、当日宜しくお願い致します。

ステイホーム期間を過ごして感じたこと

紙幅に余裕があるので、この期間に感じたことを書きます。

まず、部活動へのモチベーション。選手ではないものの、いつ練習・試合が開始されるかわからない中での待機は、メンタル的にきつかったです。正直、モチベーションが切れ、部活動の再開が不安でしたし、「なんなら今後ずっと、放課後、土日祝日すべて空いた、部活のない生活でもいいかな」という気持ちも芽生えました。だから、実は今回6月で引退した3年生の気持ちがよくわかる。

またこの期間、土日を中心に時間がたくさんあったので、山登りや料理にトライしてみました。運動不足になるから、と子供を連れての登山。途中からは子供は嫌々登っておりましたが、千歳山・三吉山・富上山といった低くて登りやすい山に挑戦しました(千歳山には何度も登りました、後ろ二つの山は東海大山形のK村先生に教えて頂きました)。もともと、土日サッカー場にいるか、たまに遊戯場にいるかの生活は、山形ライフを全く満喫していないとの気持ちがありました。山に登って山菜採ったとかキノコ採ったとか、釣りした、とか友人の話を聞いてはうらやましく思っていました。遅ればせながらの登山デビュー。せつくなので、部活動再開後も、少しずつ登ってみたいと思います。あと、前からやりたかった餃子づくりにも挑戦し

ました。ユーチューブでしっかり予習したので、作成はスムーズに行き、味もおいしく出来上がりました。今度は、皮作りからやってみたいな～。

最後に、スポーツのあり方について感じたこと。東日本大震災の時も、部活動やプロスポーツの中断がありました。が、「こんな時にスポーツ」ではなく「こんな時だからこそスポーツ」という共通理解が社会にあったように感じました。サッカー界ではいち早くチャリティマッチを開催し、スポーツの力で被災地に勇気を与えようという気概に満ち満ちていました。部活動単位での被災地・復興支援も後を絶ちませんでした。しかし、今回の感染危機では、スポーツが、なかでも観客を集めて行われる活動としてのスポーツが、感染の原因になりかねない事態となり、実際スポーツ選手の感染もありました。幸いにして命の問題になりませんでした。日本人サッカー選手も感染しましたし、日本サッカー協会（JFA）の田島会長が感染し、JFA オフィスでクラスターが発生もしました。「人が集まる、人と人とが密着するのが悪」となれば、サッカーをはじめとする多くのスポーツ自体が悪となり、震災時に感じたスポーツの社会的価値が大きく引き下げられかねない。震災時はスポーツが参加者以外にも好影響を与え得ることを確信させてくれましたが、今回はスポーツが参加者のわがままで行われているだけと受け止められかねずたまたま近くにいる人々に弁解を迫られる活動のように感じました。生存が最優先になるとしても、人間にとってスポーツをはじめとする文化の持つ意義はどのくらい大きなものなのか、考えさせられました。私の結論としては、「**人間はパンのみで生きているのではない**」、**必然・必要 necessity を離れ遊ぶことができるのが人間の人間たるゆえん（ホモルーテンスとしての人間）**という思いですが、スポーツがそのことを証明していくのには、少し時間がかかりそうです。